

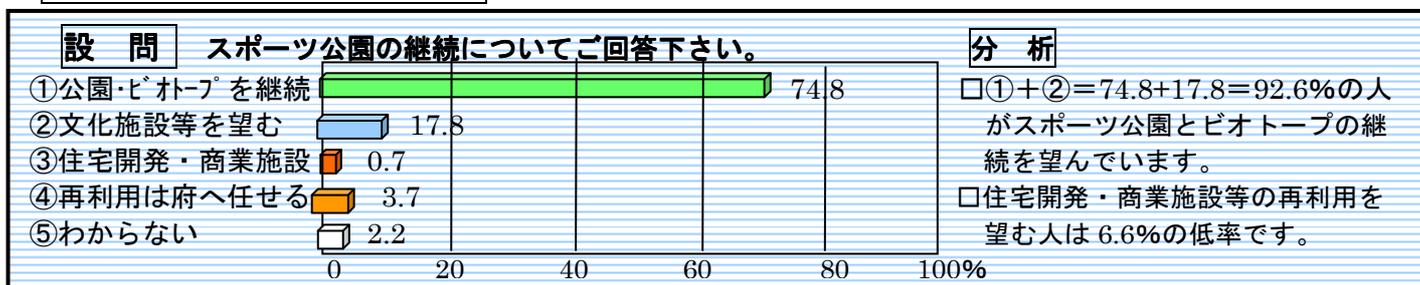
A. スポーツ公園の継続を要望する住民の声

本書は住民と会員対象のアンケート調査の原文ですが、紙面の構成上一部簡素化させて頂きました。

01. 住宅開発は慎重に。
02. 是非継続させて下さい。
03. 是非現在の状態で継続を望みます。
04. できるだけ今のままであることを願います。
05. スポーツ公園は子どもたちの体力づくりに必要。
06. 高齢者にとって心の癒しになると思います。
07. 是非スポーツ公園とビオトープを継続してほしい。
08. 子どもたちに自然が身近な情操教育にもなる。
09. 羽曳が丘には緑が少ないので是非残して戴きたい。
10. 今の広さが小さくなくても施設の継続を強く望む。
11. スポーツ公園は恒久的な施設として市の整備を望む。
12. スポーツ公園の住宅開発は基本構想の理に合わない。大阪府へ強く申し入れるべき。
13. E&Lや地域の方々の努力によってできたビオトープは継続されることを願っています。
14. 是非このまま残して欲しい。土日の利用者の多さから見たら大変喜ばれている場所です。
15. この活動を住民に知ってもらう努力（新聞、イベント等）は地道に続けたら良いと思います。
16. 家族やグループで地域活動に最大限に利用できる様な施設の整備を継続していきたいものです。
17. ビオトープ付近の緑化に市も注力し、全体としては今のままで府は利用期間を延長して貰いたい。
18. 永年の住民の汗の結晶であるスポーツ公園とビオトープの継続利用を市へ強く要望していきたい。
19. 暫定利用をキャッチコピー・アイキャッチャーなどで公開して市民の認識を高めたいと思います。
20. やっと軌道に乗った様に思われる。継続することに意味があり、住民の積極的な参加を期待します。
21. 子どもたちがスポーツをする場所がないので、スポーツ公園はもう少し広くてもいいくらいだと思う。
22. ビオトープは是非継続をお願いしたい。ビオトープの池、木、草花などつくったものは失いたくありません。
23. 再利用計画を市や府に任せるのではなく、住民が参加して次世代に引継ぎ健康な街に育てていく必要がある。
24. 5年先に府に取られるのならビオトープへの投資が無駄。頑張ればビオトープが続けられるのなら良いが？
25. 暫定利用を前提にすると活動が消極的になるが、長期にわたり活用できるものとして緑を増やすことが必要。
26. E&Lの活動をもっと羽曳が丘の皆さんに広く知ってもらったら、もっと沢山の人が興味を持つと思います。
27. 郡山のようなパークゴルフ場をつくり、他の地域との交流を深め安価な値段で地域の活性化を図ってほしい。
28. 里山を破壊して現在の形に成ったものを、何故再利用計画などで混乱させるのかまったく理解できない。スポーツ公園・ビオトープ・里山を充実、発展させることを望みます。再利用計画を大阪府に任せるには反対です。
29. スポーツ公園・ビオトープは大阪府の基本構想である「住民が自然とふれあうことのできる場」。老若男女問わず憩いの場であり、とても過ごしやすい場所で散歩がてら立ち寄れる場所です。
30. 今後更にスポーツ公園は継続するよう大阪府に要求。また、地域全体の人たちの憩いの場になり、気持ちよく利用できる施設にしていけたら良い。その成果を行政が認めて協力も得られることになる。
31. スポーツ公園を残す場合、グラウンドも必要だろうけれど、老若男女が散歩にも使える里山的な一体化した緑地機能を多くする。球技を優先して市民が遠慮するようなありきたりのスポーツ公園にはしないでほしい。
32. 地域の人たちの憩いの場になり、地域の財産として誇れるような施設にしていけたらと思います。それには皆さんの意見をよく吸い上げよく協力し、その成果を現していけば行政の協力も得られるのではないのでしょうか。
33. ビオトープ・スポーツ公園があるからこそ、9-10丁目の良さが光っています。子どもたちが毎日遊びに来たり、毎日散歩に来ている人も見ます。是非このままビオトープとスポーツ公園を残して下さい。
34. 日本の人口動向・特に出生率の低下は今後かなり続くものと思われます。住宅の需要が減少することは必定です。新規の開発を促すことなく、現在のスポーツ公園・ビオトープ・里山を保全することが望まれます。



アンケート調査・今後の活動方針・・・スポーツ公園の継続を望む声は92.6%



1. アンケート調査結果は、羽曳が丘で暮らし羽曳が丘の住環境を知る羽曳が丘住民の声です。スポーツ公園の住宅開発問題は、同地に暮らす羽曳が丘住民が主役になって行政へ積極的に提言しましょう。
2. この住宅開発問題は、羽曳が丘全体の問題であり、羽曳が丘E&Lと羽曳が丘町会連合会が協働して調査検討し、今年度の北川市長とのタウンミーティングで、スポーツ公園とビオトープの継続を再度要望します。

地域の課題は地域の住民が提案して解決しましょう。



B. ビオトープの継続を提案する住民の声

06-11～07-3 月実施の住民と会員対象のアンケート調査の原文ですが、紙面の構成上一部簡素化させて頂きました。

01. 季節のお花や植物を沢山植えたい。
02. 広報紙にビオトープ観察日誌の掲載。
03. 自然を壊さないようにすることを第一に。
04. ビオトープの規模が小さい。もっと大きく。
05. 自然が生活の中にとけこんでいるのが素敵です。
06. 池の周りにもっと木を植え森の中にしたい。
07. ビオトープは緑いきいきゾーンの中につくって欲しい。
08. ビオトープ子どもクラブの子供教室を開設。
09. 施設を利用するためのバス・車などを考えて載きたい。
10. 校外学習や祭り事に利用してはどうでしょう。
11. 第3集会所のトイレまで車イスのアスファルト道路がほしい。
12. ビオトープに生息する植物・動物の名前を広報紙に掲載して欲しいです。
13. 池のまわりを花いっぱいにして、ベンチにいつも誰かがいるような場所にしたい。
14. 休憩施設・水田・・・ビオトープには森・林・池・水田のつながりが美しいと思う。
15. ビオトープのPR活動としてビオトープの四季の移ろいを写真におさめイベント時に展示。
16. ビオトープの森をもっと拡大し、春は桜、秋は紅葉として住民の親しむ広場をつくりたいです。
17. 羽曳野市には市民が何時でも憩えるような公園がないので、大泉緑地のような公園にして欲しい。
18. 冬季はあまり里山活動がないですが、寒い日は里山の動植物の勉強会を開いてほしいと思います。
19. 大きな木の下や芝生の上に寝ころがって、本を読んだりして休日を過ごせる場所にしてほしい。
20. 生活部で取組んでいる高齢者交流サロン活動の延長として少し工夫したものを取入れてもいいのでは。
21. 施設を作るより、木をたくさん植え、休憩できる木陰や起伏ある公園を希望する。平坦地はつまらない。
22. ビオトープ・広場を活用していくために、ベンチスペース等の休養場所を拡張し福祉活動の拡大等希望。
23. ボランティアがだんだん高齢化しているので、規模を大きくしないほうが良いのではないのでしょうか？
24. 池も水辺の植物や生き物を増やすよう工夫できたら楽しいと思います。長い目と育てていく過程と協力。
25. 夏は子ども達が水遊びができる浅い池や川があるといい。冬はちょっとしたアスレチックができればよい。
26. 4月～桜まつり・8月～キャンプ・PL花火大会観賞席・10月～羽曳が丘運動会・11月～野外会食会
27. ビオトープの動物や植物についての情報を掲示板や会報・ホームページを通じて伝えてほしいと思います。
28. 周辺の緑がまだまだ足りず寂しい。特に背後（南側）の小山の斜面や周辺に常緑樹を含む植栽が望ましい。
29. 最近、犬を遊ばせる場所がありません。一部にドッグランドを用意していただけたらありがたいですが？
30. ビオトープを管理することを通して地域社会の交流を図ることが可能。今後の積極的な活動を期待します。
31. ビオトープクラブの親睦をはかると出席率が上がると思う。グループ対抗のグランドゴルフは如何でしょうか。
32. 現在進めている植林が順調に成長して、森林になることを願っています。樹木の保全活動に敬意を表します。
33. ビオトープに木陰がほしいので桜の木をもっと植えてほしい。ビオトープでお花見がしたいです。
34. 老若男女を問わず憩いの場であり、とても過ごしやすい場所と感じています。散歩がてらに立ち寄れる場所です。
35. 公園に遊具を置いてほしいです。ビオトープのところに何か木が立っている丘がありますよね。うちでは「トトロの丘」って呼んでいます。子供たちが大好きなアニメ映画に出てくる木みたいなんです。
36. はじめはビオトープも何だかわからなかったけれど、今では人間と緑、水辺の生き物、野鳥等と共に仲良く生きたいと思うようになりました。心がなんとも和みます。楽しいです。これからも仲良くやっていきたいです。



アンケート調査と、地域の住環境課題・・・住宅開発すると開発計画時の基本構想が消滅します。



1. 全国生涯学習市町村協議会／文部科学省委託の「新しい地域づくり推進のための生涯学習行政のあり方に関する調査研究報告書」にE&Lの活動が掲載されました。これからのまちづくりは「国から地方」へ、「官から民」という時代の中で、新しい公共による地域づくりを実践する全国94団体中の6モデル団体に選定されました。
2. 京都大学大学院農学部／日本造園学会での環境事例発表セッションで、箕面市の「水と緑の健康都市」は約3000戸の宅地面積で、里山・オオタカ保全緑地・公園などの自然環境との面積比が同一でした。同地では市民と行政（大阪府箕面整備事務所）が環境共生を理念に、里山や公園緑地の維持管理を市民活動で実践していました。
3. 上記2.のセッションでE&Lのまちづくり活動は、長期的な市民活動として評価されました。箕面市の「水と緑の健康都市」の住環境面積比に類似していることにも注目されました。しかし、大阪府では財政難を理由に住宅再開発を検討しています。スポーツ公園が住宅地になると、自然環境エリアがなくなって大阪府の「ふれあいの郷基本構想」が消滅します。開発計画時に発表した環境重視の基本構想が消滅しても良いのでしょうか？
4. 上記2.のセッションに参加された奥谷様（京都府/地球温暖化対策プロジェクト）の「地域環境創造に関する論文/京都橘大学大学院の学会誌」の活動事例にE&Lの活動が掲載されました。今後も奥谷様にはNPOや市民の地域環境創造・地球温暖化対策などについてご指導ご支援をお願いしたいと思っています。

